厚生労働科学研究費補助金
感覚器障害研究事業

日本各地の手話言語に関するデータベースの作成

平成19年度　総括・分担研究報告書

主任研究者　福田　友美子

平成20（2008）年３月

目　　次

Ⅰ．総括研究報告
日本各地の手話言語に関するデータベース　1
福田 友美子

II. 分担研究報告
1．東京地域の手話言語の収集および分析　5
福田 友美子
2．京都地域の手話言語の収集および分析　19
大杉 豊

III. 研究成果の刊行に関する一覧表　31

IV．研究成果の刊行物・別刷　31

（別添 2）

Ⅰ．総括研究報告

厚生科学研究費補助金（感覚器障害研究分野）
総 括 研 究 報 告 書

日本各地の手話言語に関するデータベースの作成

主任研究者：福田友美子　国立身体障害者リハビリテーションセンター
研究所聴覚言語障害研究室長

研究要旨

手話言語には，日本語のような音声言語と同様に，地域による違いや年代による大きな違いがあることが知られている．しかし，これまでわが国において，世代や地域による違いについては，いくつかの地域で手話表現を収集することが試みられているだけで，分析的・総合的な研究は実施されてこなかった．そこで，本研究では，日本各地の地域や年代による手話表現の違いを明らかにすることを目的にした．そのために，次の２箇所で，次のような研究を実施した．

①東京地域：20 歳台から 70 歳台の広い世代のろう者 14 名を対象に，約 30 分くらいの手話表現を収録し，使用単語を調べ上げ，単語の使用状況を調べた．さらに，東京地域の在住の 30 歳台のろう者の手話言語を中心にして作製してある電子辞書を活用して，高齢ろう者で使用される単語の種類や語法がどのように若い世代と違うか，分析・整理した．最終年度の平成 19 年度は，32 単語について高齢聾者の特徴を現す例文を作成し，手話表現の含む画像データベースを作成した．②京都地域：東京地域と同様な研究を実施している．60 歳台から 80 歳台の京都府立ろう学校を卒業した 20 名のろう者の対話での手話表現を収録・分析した．続いて東京地域の手話表現を収録した DVD 資料の活用により、年齢だけでなく地域による語彙使用の違いの分析を行った。以上の分析結果を踏まえて聾学校の手話言語環境に関する仮説を策出し、最後にこの分担研究で得られた言語資料を手話通訳養成、手話言語研究、特別支援教育等に活用するための枠組みを考察した。

A.　研究目的

①手話通訳の現場における課題

障害者自立支援法では市町村における手話通訳派遣が義務化されている。厚生労働行政においても、手話奉仕員と通訳者の養成カリキュラムが以前に策定され、地域での手話通訳の設置と派遣が推進されてきた。

また、聴覚障害者の当事者団体に委託された標準手話確定普及事業により、全国に標準手話が普及している。上述の手話奉仕員養成もこの標準手話を中心とするものである。

しかし、(1)聴覚障害者一人ひとりの受けた教育内容に差異が大きいこと、(2)地域による手話の違いが大きいことを主な理由に、標準手話を学んだ手話奉仕員や手話通訳者が聴覚障害者の手話を読み取るときに困難さを感じる傾向が指摘されている。

とくに、高齢者の手話表現を読み取って日本語に通訳する作業が困難とされているため、高齢者が使用する手話が、若年層の手話とどういう面で

違うのかという分析による成果を手話通訳養成に反映させていく必要がある。

②手話の言語的認知によって生じる課題

2006 年国連総会にて「障害者権利条約」の制定があった。現在は各国政府による批准段階であるが、この条約では言語を音声言語と手話言語両方を含むものと定義している。これは国際的に手話が言語として認知されたことを示す。

よって、日本でも手話が言語であることを国民に説明して、聴覚障害者が諸権利を行使する上で手話の使用が欠かせない条件であることを法律等に反映させていく時期に入っている。

手話が言語であることを説明するひとつの方法として、日本語と同様に地域や年代によって広がりがあり、単語や文法に言語としての構造があることを示す言語地図の作成が求められている。

地域独特の手話表現を収録した単語集がいくつか出ているが、これらの成果を踏まえた上で、地域や年代による手話の違いを明らかにする、分析的･総合的な研究が、言語地図の作成にあたっての必要条件である。

③ろう教育現場における課題

ろう教育においては、ろう学校の生徒数減によるさまざまな問題が指摘されているが、そのひとつに、同じ聴覚障害を持つ成人がどのように生活をしているのかを学ぶ機会が少ない点である。とくに高齢者が同じ社会の中でどのような経験をしてきたのかを知ることが重要である。

そのための具体的な方法として、たとえば同じろう学校の卒業生一人ひとりが手話で語る映像をいつでも見られるような映像ライブラリーの設置が考えられる。

④本研究の目的

以上に述べた 3 つの課題に応えるための基礎研究として、地域や年代によるさまざまな手話表現をデータとして収集し、手話通訳養成、言語地図作成、映像ライブラリーなど汎用的な目的に応用できるシステム作りを目指す。

B．研究方法

(1)ろう者の対話を対象にした研究

東京地域と京都地域それぞれにおいて、各地域に在住するろう者を対象に，40～50 分程度の対談をしてもらい，手話表現を収録する．次に，この一連の対話を，単語レベルに区切り，出現している各単語にラベル付けをする．データベースソフトを用いてこの結果を整理し，単語毎に検索できるデータベースを作成し，つぎのように研究を実施した．

A．使用頻度の高い基本単語を，地域や年代による違いも考慮に入れながら，調べる．

B．使用頻度の高い単語について，特に地域の特性や高齢者の特性を考慮しながら，どのような語義をもっているか分析する．

(2) 東京地域の若いろう者の手話言語についての電子辞書（作成済）を活用した研究

「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話- 日本語辞書の作成」（平成１１～１３年度厚生科学研究費補助金）（感覚器障害及び免疫･アレルギー等研究事業(感覚器障害研究分野)）の研究で，電子辞書を作製した．この辞書に掲載してある単語や文の表現（ビデオ動画）を，東京在住で高齢のろう者にみてもらって，年代によって異なる手話表現の違いについて，ろう者に詳細なインタビューを実施し，単語の語義別に違いを整理し，手話言語の時間的な変化について検討した．

C．結果と考察

(1) ろう者の対話を対象にした研究

① 東京地域

A.単語表現の変化

ろう者が生活している社会情勢の変化によって，単語の表現に変化が見られるものがあった．その例としては，「仕事」がある．以前はろう者が就

く仕事の多くは手作業によって製品を製作する職種がおおかった，そのために「作る」の単語が「仕事」をあらわしていた．その後，印刷関係の職種がろう者の代表的な職種になり，「印刷」を表す単語で「仕事」を表現するようになった．同様の例には，「外国人」「助手」などがある．

B.語彙の拡大

社会の変化に合わせて，あたらしく出現した単語がかなりあった．その例としては，「コマーシャル」がある．若いろう者ではアルファベットの指文字（CM）で表現されることが多いが，高齢者では「休憩」「宣伝」などの単語があてられる．

C.ロールシフトや CL の多用

高齢ろう者の対話では，手話言語を特徴付ける「CL」が多用されていた．例えば，60 歳台のろう者では 30 歳台のろう者に比べて，1.8 倍多く CL が使用されていた．ロールシフト表現も多い．これらについて詳細な分析は現在進行中で，今後，報告したい．

D. データベースの作成

語法が変化した 32 単語について，各単語の高齢ろう者と若いろう者の手話表現を両方のせて，違いがみられる手話言語のデータベースを作成した．

② 京都地域

A. 単語については、50～60 年前のろう学校生活で使われた単語が多く見られた。一方、比較的新しいとされる単語や指文字の使用も見られるなど、高齢者が現在の手話に対応している様子が伺えた。京都府立ろう学校に関わる単語については、京都地域に在住する手話通訳者が理解できないものがいくつか見られた。

B. 文法については、手の形や動きでものの形や動きを伝える機能、顔の表情が副詞や文型を伝える機能、身体の向きで話者の変換を伝える機能などが主な特徴として観察された。また、文末の指差し表現や、数字・性別手型を伴う表現などに注目すべき点が多く見出された。

(2) 東京地域の若いろう者の手話言語についての電子辞書（作成済）を活用した研究

平成 18 年度は，「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話－ 日本語辞書の作成」（平成１１～１３年度厚生科学研究費補助金）（感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業（感覚器障害研究分野））の研究で作製した電子辞書を，高齢のろう者にみてもらい，高齢のろう者ではつかわない若いろう者に特有の語法を指摘してもらった．そして，そのような新しい語法が出現してきた事情などについて，インタビューした．使用頻度の高い重要単語の中にも，高齢ろう者と若い世代でその語法が異なっているものがあった．さらに，そのように変化している語法の例文の内容を表現する手話文を，高齢のろう者に表現してもらい，収録した．それらの手話文では，高齢者に多用されるロールシフトや CL の表現やよく見られた．

研究の最終年度である平成 19 年度には，語法が変化した単語について，高齢ろう者と若いろう者の手話表現を両方のせて，違いがみられる 32 単語について，例文を載せた手話言語のデータベースを作成した．今後は，このような情報を学習者に提供できるようにしたい．

平成 19 年度は，東京と京都の地域のよって異なる単語とその語法を検討したところ，電子辞書に提示される語彙が京都地域で使用されていない、同じ形であっても意味や語法にずれが認められること、そしていくつかの語彙の語法については同じ京都地域でも年齢層による違いが存在することがみとめられた．日本語の語彙において地域及び年齢による違いが見られることはごく一般的な知識として広まっているが、同じ現象が手話にも見られるということで，興味深い．

D．結論

本研究では，日本各地の年代や地域による手話表現の違いを明らかにすることを目的にした．そのために，次の２箇所で，次のような研究を実施

した．

東京地域：20 歳台から 70 歳台の広い世代のろう者 14 名を対象に，約 50 分くらいの手話表現を収録し，使用単語を調べ上げ，単語の使用状況を調べた．さらに，東京地域の在住の 30 歳台のろう者の手話言語を中心にして作製してある電子辞書を活用して，高齢ろう者で使用される単語の種類や語法がどのように若い世代と違うか，分析・整理し、語法が変化した 32 単語について，各単語単語の高齢ろう者と若いろう者の手話表現を両方のせて，違いがみられる手話言語のデータベースを作成した．

京都地域：京都府立聾学校在籍経験者より生成された手話の言語資料及び東京地域の手話言語の電子辞書等の補助資料を用いての分析により、日本語などの音声言語と同様に手話も通時的に共時的に語彙の変化に富むことが、京都地域でも確認された。分析結果の考察により、聾学校における手話言語環境の調整が手話の語彙と文法に大きな影響を及ぼしている可能性についての仮説を索出した。仮説の検証は手話言語地図の作成という課題の中でなされていくべきであり、また本研究で生成された言語資料が手話通訳養成及び聾教育に果たすであろう可能性が示唆された。

E．研究論文発表

1. 論文発表　なし
2. 学会発表　なし

F．知的所有権の取得状況

1. 特許取得　なし
2. 実用新案特許
3. その他　なし

（別添 3）

Ⅱ 分担研究報告

1．東京地域の手話言語の収集および分析

厚生科学研究費補助金（感覚器障害研究事業）
分 担 研 究 報 告 書

東京地域の手話言語の収集および分析

分担研究者：福田友美子　国立身体障害者リハビリテーションセンター
研究所聴覚言語障害研究室長

研究要旨

東京地域に在住している20歳台から70歳台の広い世代のろう者14名を対象に，約50分くらいの手話表現を収録し，使用単語のラベルを調べ上げ，まず，各単語の使用頻度を調べた．さらに，東京地域の在住の30歳台のろう者の手話言語を中心にして作製してある電子辞書を活用して，高齢ろう者で使用される単語の種類や語法がどのように若い世代と違うか，分析・整理した．最終年度の平成19年度は，32単語について高齢聾者の特徴を現す例文を作成し，手話表現の含む画像データベースを作成した．

A.　研究目的

手話言語には，日本語のような音声言語と同様に，地域による違いや年代による大きな違いがあることが知られている．しかし，これまでわが国において，地域や世代による違いについては，いくつかの地域で手話表現を収集することが試みられているだけで，分析的・総合的な研究は実施されてこなかった．そこで，本研究では，日本各地の地域や年代による手話表現の違いを明らかにすることを目的にした．また，特に高齢者では日本語能力が低いものがおおいためコミュニケーションをとりにくいものが多く，さらに手話通訳する上では高齢者の手話についての知識が乏しいため通訳がむずかしことが手話通訳者の大きな悩みとなっている．高齢者の手話表現を明らかにすることは，緊急の課題になっている．そこで，本研究では高齢者の手話言語についてその特徴をあきらかにすることも目的とした．

B．研究方法

① 研究の初年度である平成17年度には，東京地域に在住している20歳台から70歳台の広い世代のろう者14名（表1）を対象に，40～50分程度のろう者間の2人対談をしてもらい，約50分間の手話表現を収録した．次に，この一連の対話資料を，単語レベルに区切り，出現している各単語にラベル付けをした．この分析には，手話言語を母国語としている幼児期から手話言語環境で育ったろう者があたった．データベースソフトを用いてこの結果を整理し，単語毎に検索できるデータベースを作成した．

研究年度第2年度の平成18年度は，これを利用して，つぎのように研究を実施した．

(1). 使用頻度の高い基本単語を，年代による違いを考慮に入れながら，調べる．

(2). 使用頻度の高い単語について，特に高齢者について，どのような語義・語法をもっているか分析する．

(3). 高齢者の特徴を表現している，例文を作成する．
(4) 高齢のろう者に対するインタビューなどを通じて，頻繁に使用される表現であるにもかかわらず，所持している資料にその例がないことがわかった場合には，その単語や用法について，(2)(3)の作業に付け加える．

(1)～(4)の研究を実施するにあたっては，「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話－日本語辞書の作成」（平成１１～１３年度厚生科学研究費補助金）（感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業（感覚器障害研究分野））の研究で作製した電子辞書を活用した．この辞書は東京地域在住の 30 歳台のろう者が中心になって，例文など作製したものである．この辞書に掲載してある単語や文の表現（ビデオ動画）を，高齢のろう者にみてもらって，年代によって異なる手話表現の違いについて，高齢のろう者に詳細なインタビューを実施し，単語の語義別に違いを整理し，手話言語の時間的な変化について検討した．

研究の最終年度である平成 19 年度には，語法が変化した 32 単語（表４）について，各単語単語の高齢ろう者と若いろう者の例文を作成し，手話表現の違いがわかるように両方の表現を載せた手話言語のデータベースを作成した．

C．結果と考察

(1) ろう者の対話を対象にした研究から得られた結果

① 14 名のろう者の対話で拾い上げられた単語のラベルの数を，手型別に表２に示した．手話言語で使用される手型の種類の分類には様々な考え方があるが，今回，我々は表２にあげたように分類した．手話言語の単語は，手話言語の音韻の１種である手型で表現されるが，その使用頻度には，音声言語の音韻の使用頻度と同様に，大きな違いがあるとたびたび指摘される．今回の分析で，使用頻度の多い手型がなにかについて，客観的なデータをに示すことができた．

また，使用頻度の高い単語を調べてみたところ，たとえば手話単語「意味」や「オーバー」は若いろう者では使用頻度が高いが，高齢者では高くない．これらの単語は，世代によって語法が異なっていることがわかっているが，そのために使用頻度に差が生じていると思われた．

それぞれの対象者について，30 分あたりでの対話での総単語数と単語の種類について，分析が集計しているものだけについて，その結果を表３に示した．ろう者が日常会話のなかでどのくらいの量の単語の種類をつかっているかなど，これまで客観的な資料がほとんどなかった．ここでの結果からみると，高齢のろう者のほうが多くの種類の手話単語を使用しているように思われるが，今後，その実態やそのような状況が生じる原因などを検討していきたい．

② 単語表現の変化

ろう者が生活している社会情勢の変化によって，単語の表現に変化が見られるものがあった．その例としては，「仕事」がある．以前はろう者が就く仕事の多くは手作業によって製品を製作する職種がおおかった，そのために「作る」の単語が「仕事」をあらわしていた．その後，印刷関係の職種がろう者の代表的な職種になり，「印刷」を表す単語で「仕事」を表現するようになった．同様の例には，「外国人」「助手」などがある．

② 語彙の拡大

社会の変化に合わせて，あたらしく出現した単語がかなりあった．その例としては，「コマーシャル」がある．若いろう者ではアルファベットの指文字（CM）で表現されることが多いが，高齢者では「休憩」「宣伝」などの単語があてられる．

③ ロールシフトや CL の多用

高齢ろう者の対話では，手話言語を特徴付ける「CL」が多用されていた．例えば，60 歳台のろう者では 30 歳台のろう者に比べて，1.8 倍多く CL が使用されていた．ロールシフト表現も多い．これらについて詳細な分析は現在進行中で，今後，報告し

たい.

(2) 電子辞書を活用した研究から得られた結果（高齢のろう者と若いろう者の手話言語の語法の違い）

「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話- 日本語辞書の作成」（平成１１～１３年度厚生科学研究費補助金）（感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業（感覚器障害研究分野））の研究で作製した電子辞書を，高齢のろう者にみてもらい，高齢のろう者ではつかわない若いろう者に特有の語法を指摘してもらった．そして，そのような新しい語法が出現してきた事情などについて，インタビューした．使用頻度の高い重要単語の中にも，高齢ろう者と若い世代でその語法が異なっていて，変化してきた単語があることがわかった．さらに，そのように変化している語法の例文を表現する手話文を，高齢のろう者に表現してもらい，収録した．それらの手話文では，高齢者に多用されるロールシフトやCLの表現やよく見られた．

以上の研究を基に、研究の最終年度である平成19年度には，語法が変化した 32 単語（表４）について，各単語単語の高齢ろう者と若いろう者の手話表現を両方のせて，違いがみられる手話言語のデータベースを作成した．データベースでの単語の検索の流れを，図１に示した．検索の流れは，基本的に，平成１１～１３年度の研究で作成した電子辞書と同じである．説明画面のディスプレイ画面を図２に、単語の説明画面の表５に示した。

今後，作成したデータベースを学習者に提供できるようにしていく予定である．

D．結論

ろう者の対話を対象にした研究を実施したところ，次のことがわかった．

① 14 人のろう者の 30 分くらいの日常会話で使用されていた単語の種類はのべ数は，1700 語以上にのぼっていた．

② 手話単語の構成要素の１種である手型別に単語を分類すると，手型の使用頻度にはおおきな偏りがあった．

③ 高齢のろう者のほうが，使用する単語の種類が多いような傾向がみられた．

④ ろう者が生活している社会情勢の変化によって，単語の表現に変化が見られるものがあった．

⑤ 社会の変化に合わせて，あたらしく出現した単語がかなりあった．

⑥ 高齢ろう者の対話では，手話言語を特徴付ける「CL」や「ロールシフト」が多用されていた．

以前の研究（「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話- 日本語辞書の作成」（平成１１～１３年度厚生科学研究費補助金（感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業（感覚器障害研究分野））））で作成した電子辞書を活用した研究から，

① 基本語彙のなかにも．語法が変化している単語があった．

② 32 単語について，高齢ろう者と若いろう者の手話表現を両方を載せて，高齢の手話表現の違いについての手話言語のデータベースを作成した．

E．研究論文発表

1. 論文発表　なし
2. 学会発表　なし

F．知的所有権の取得状況

1. 特許取得　なし
2. 実用新案特許
3. その他　なし

（別添 3）

表１．収録したろう者のプロフィール

70 歳台	３名
60 歳台	２名
50 歳台	２名
40 歳代	１名
30 歳台	３名
20 歳台	３名

表２．拾い上げたラベルの種類（手型別）

24 種	29 種	25 種	69 種	7 種	307 種	45 種
137 種	21 種	89 種	2 種	260 種	83 種	23 種
298 種	67 種	68 種	85 種	41 種	19 種	41 種
4 種	1 種	3 種				

（別添 3）

表３．30 分あたりの対話で発せられた単語の総単語数と，単語の種類の数

対象者のプロフィール	単語の総数	単語の種類数
70 歳台	2062	567
60 歳台	2625	473
60 歳台	2649	599
40 歳台	1465	326
30 歳台	2675	399
30 歳台	1357	352
20 歳台	1363	322
20 歳台	2012	408
20 歳台	1754	377

表４．高齢ろう者と若いろう者の手話表現をを載せた単語

ややこしい（Ｅ２）	つまらない(エ)（Ｅ３）
高齢（Ｅ６）	目的（ＨＩ１）
わからない(ヒ)（ＨＩ３）	言う(ヒ)（ＨＩ４）
スムーズ（ＨＩ９）	くだらない（ＨＩ１３）
ムリ(ヒ)（ＨＩ１４）	上がる(ク)（ＫＵ６）
下がる（ＫＵ７）	なんだ(ク)（ＫＵ１７）
欲する（ＫＵ２５）	ない(メ)（ＭＥ５）
早い（ＭＯ５）	失敗(顔)（ＫＡＯ1）
言う(オ)（Ｏ１）	つまらない(オ)（Ｏ４）
忘れる（Ｏ７）	違い(レ)（ＲＥ２）
ムリ(レ)（ＲＥ４）	普通（ＲＥ７）
好き（ＲＥ８）	違反（ＲＯ１）
する(サ)（ＳＡ２）	成功(サ(下))（ＳＡ７）
行く（タ）（ＴＡ１）	飽きる（ＴＡ２）
すそまくる（ＴＡ４）	倒す（ＴＡ５）
だめ(タ)（ＴＥ７）	得意（ＹＡ１）

（別添 3）

図１．データベースの検索のフローチャート

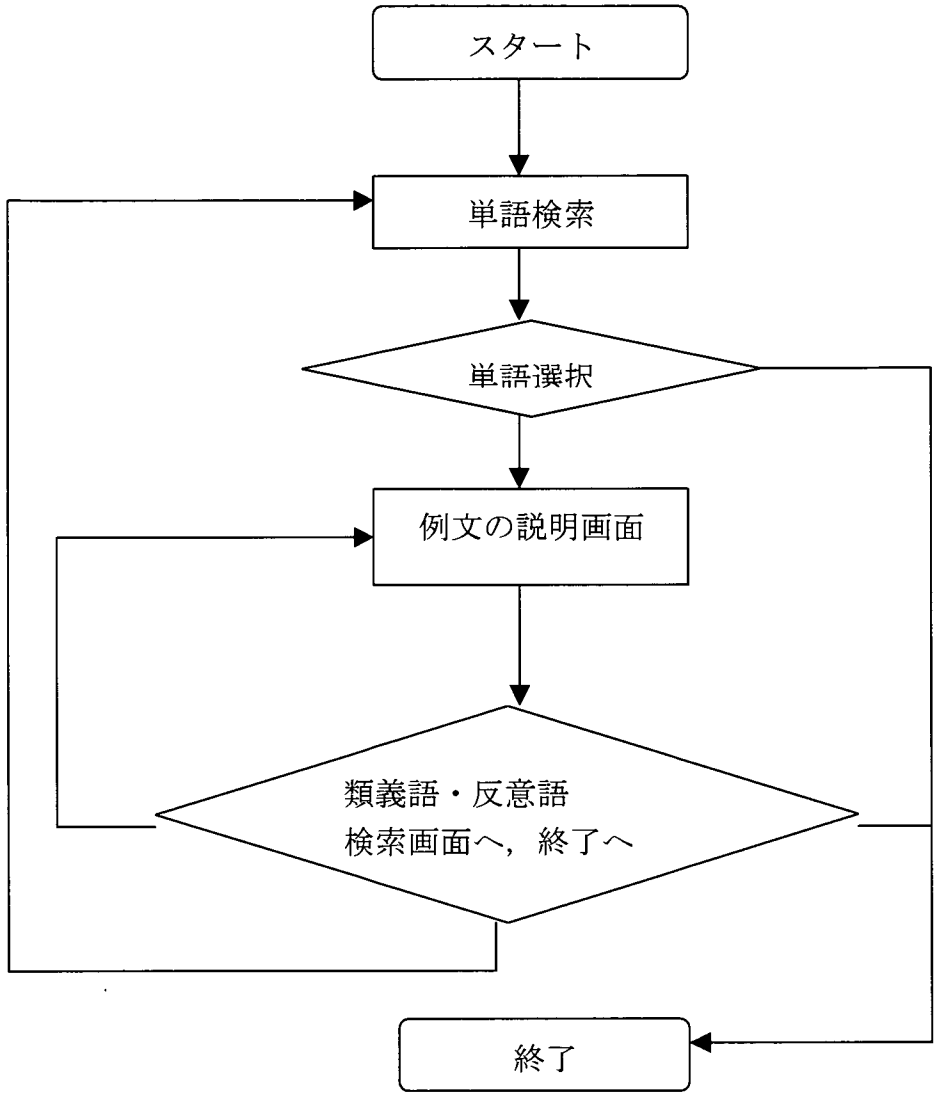
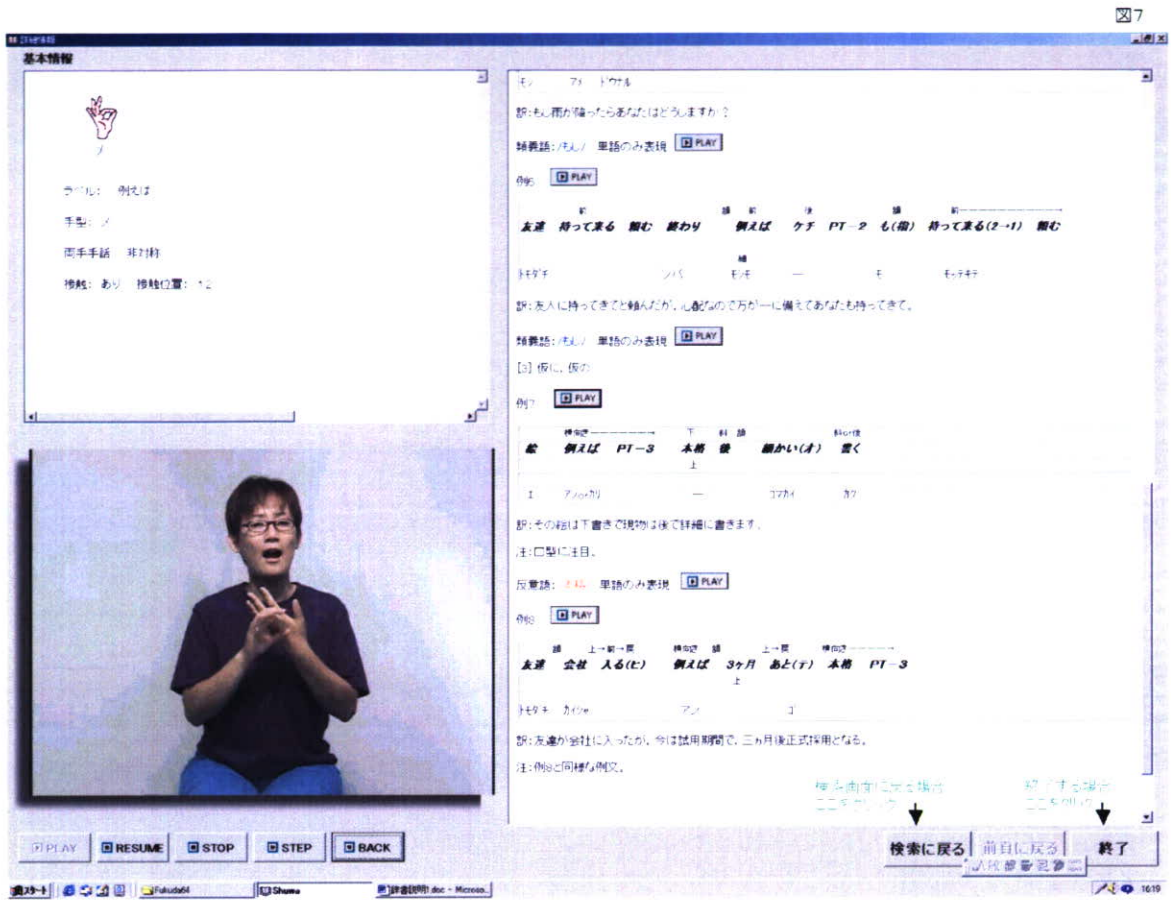


図 2. データベースのディスプレー画面の例



三番目の語義「仮に，仮の」の例文は例7と例8.
この画面には，類義語や反意語も示し，それらの単語が辞書に掲載している場合はその頁に，とぶことが可能．掲載がない場合には単語表現だけを掲載.

（別添 3）

表 5. 高齢ろう者と若い世代のろう者の単語の用法の違いの説明画面（赤字が高齢者の表現）の例

意味

［1］ 意味（基本）

例 1

斜----------→
PT-2 説明（2→1） 意味 わからない（テ）
ル----------→
細----------→
イミ

訳：あなたの話は意味がわかりません。

注：「意味」「意味する」の意味。日本語口型「イミ」を伴うことが多い。

例 2

下	下	後
沖縄 地域 言う（ヒ） （繰） めんそうれ どうぞ 意味		
上 上	上	
丸		
ｵｷﾅﾜ ﾎｳ ｹﾞﾝ	ﾒﾝｿｰﾚ	ｲﾐ

訳：沖縄の方言で「めんそーれ」は，歓迎という意味です。

注：「とういうこと」「という意味」の意味。この例文のように文末に/意味/がきた場合，左手の動きは消失し，右手だけの片手手話として表されるのが一般的。

［2］ 「～だから」，「～なので」（理由）

例 3

横向き	上→下
本 RS（投げつける） 本 RS（投げつける） イライラ 意味	
ル----------→	ル----------→
ﾎﾝ	イ イミ

訳：（本を投げつけている人を見て他の人に）いらいらしてるの？

注：「～だから」，「～なので」の意味。文末におかれることが多い。この例文は，本を投げつけている人に RS をして，次にそれを見た自分になっている。/*イライラ*/の前に表れている視線の方向や表情からが自分。

例 4

		下	頷		下						
いつも	***マスク***	***花***	***病気***	***意味***	***PT-2***						
ル----------→											
細----------→											
イツモ	マスク		カフンショウ	イミ							

訳：いつもマスクをしているけど花粉症なの？

参考-高齢者（男性）A

斜--→戻		横向き			頷		下→戻	下					下		
過去	***から***	***アメリカ***	***場所***	***勉強***	***好き***	***憧れ(繰)***	***働く***	***お金を貯める***	***成功(サ下)***	***飛行機***	***終わり(テ)***	***やっと***			
ル					ル-------→		ル------→	ル----------→					ル---→		
		眠---------→		閉-------→		閉------→		閉----------→				閉---→		閉	
マエ	カラ	アメリカ		ベン	タイ	イ			膨らむ	ポ			パ		パ

訳：かねてからアメリカ留学をしたいと思っており，お金を貯めて渡米したのです。

注：同内容を若者が表現すると，/*やっと*/のところで/*意味*/を用いることが多い。

参考-高齢者（女性）A

頷		下							下------→戻			斜	
PT-1	***過去***	***から***	***アメリカ***	***PT-3***	***勉強***	***憧れ***	***お金***	***お金を貯める***		***やっと***	***飛行機***	***PT-1***	
					ル------→								
	細					細------→							
		マエカラ	アメリカ						ア	パ			

訳：かねてからアメリカ留学をしたいと思っており，お金を貯めて渡米したのです。

注：参考-高齢者（男性）A と同内容の別の表現。若者は文末の/*PT-1*/のところで/*意味*/を用いることが多い。

（別添 3）

参考-高齢者（男性）B

頷		下	斜	頷		頷	前	頷（繰）	下
PT-3	***会社***	***辞める***	***理由***	***何***	***お金（2→1）***	***安い***	***不満***	***辞める***	***あっそう***
		ル----------→	ル----------→		ル---------→				
眠			細	閉----------→		閉---------→			
	カイシャ	イ	リュウ		エ	ハ	ビ		

訳：あの人が会社を辞めたのは給料に不満があるからだそうだ。

注：同内容を若者が表現すると，*/あっそう/*のところで*/意味/*を用いることが多い。

参考-高齢者（女性） B

頷				頷			斜-------→		
PT-3	***会社***	***辞める***	***PT-3***	***理由***	***お金（2→1）***	***安い***	***不満***	***PT-3***	
		ル----------→							
			細	細----------→					
	カイシャ	パ	リュウ		パ				

訳：あの人が会社を辞めたのは給料に不満があるからだそうだ。

注：参考-高齢者（男性）B と同内容の別の表現。若者は文末の*/PT-3/*のところで*/意味/*を用いることが多い。

［3］そういうことか，そうだったのか（納得）

例５

上----------→		前		後+頷		頷
顔	***似る***	***PT-3（左右に）***	***疑問***	***名前***	***同じ***	***兄弟***	***意味***
ル----------→							
	細			細----------→	閉---------→		
カオ	パ			ナマエ	オナジ	ア	ギョウダイ	イミ

訳：顔がそっくりなので不思議に思ったら，名前も同じだった。兄弟だったのか。

注：疑問に対して納得がいったときに使われる。

例６

	横ふり	頷	前		前
道	***わからない（ク）***	***地図***	***調べる***	***ＰＴ－３***	***意味***
	ル				上
ﾐﾁ	ﾜｶﾗﾅｲ	ﾁｽﾞ	ｱ	ｲﾐ	

訳：道がわからないので，地図で調べて行き方がわかった。

注：例５と同様の例文。

例６-高齢者（男性）

ふらふら	下→戻	頷	下	下		頷
道	***探す***	***不明***	***地図***	***ＲＳ（見る）***	***PT-3***	***なんだ（サ）***	***PT－３***
	ル	ル	上	ル----------→		
		閉	眠	細----------→		
ﾐﾁ	ｲ	ﾎﾟ	ﾁｽﾞ	ｱ		

訳：道がわからないので，地図で調べて行き方がわかった。

注：例６と同内容の高齢者の表現。

例６-高齢者（女性） A

横ふり----------→	下--------→	横向き+頷	後		
道	***わからない（テ）***	***地図***	***調べる***	***PT-3***	***OK***	***わかった***
ル----------→					
細----------→					
ﾐﾁ	ｵ	ﾁｽﾞ	ｱ--------→		

訳：道がわからないので，地図で調べて行き方がわかった。

注：例６と同内容の高齢者の別の表現。

例６-高齢者（女性）B

横ふり……→	下……→	横向き+頷	下	
道	*わからない（テ）*	*地図*	*調べる*	*PT-3* *なんだ（サ）*
ル……→				
細……→		細	閉	
ミチ	オ	チズ	ア……→	ヒ

訳：道がわからないので，地図で調べて行き方がわかった。

注：例６と同内容の高齢者の別の表現。

参考-高齢者（男性）

頷	斜	頷	頷	横向き	頷（繰） 下
女	*顔*	*きれい*	*ダイエット*	*得意*	*何* *男* *成功（サ前）* *あっそう*
上……→	ル……→				
丸……→	閉	閉……→			
オ……→	ポ	ア			

訳：あの女性が急にやせてきれいになったと思ったら，彼ができたのか。

注：同内容を，若者は文末に/*あっそう*/ではなく，/*意味*/を用いることが多い例文。

例６-高齢者（女性）

頷	横向き……→	頷（繰）	斜……→	頷（繰）
PT-3	*ダイエット*	*きれい*	*得意*	*好き* *男* *恋* *いる*
細……→				
オ……→	ア	スキ	イル	ア

訳：あの人がやせてきれいになったのは，好きな人ができたからなんだ。

注：参考-高齢者（男性） の別の表現。この例文でも若者は文末に/*意味*/を用いることが多い。

（別添 3）

参考-高齢者（男性）

頷	下		頷	横ふり	頷	前			下	上→戻	下	
PT-2	*けち*	*貯める*	*理由*	*何*	***PT-2***	*家*	*買う*	*目的*	***PT-2***	*あっそう*		
	ル----------→		ル------→									
閉	細	細------→閉							閉			
エ	膨らむ	ウ		ア	オウチ			ア		ア		

訳：あなたがそんなに倹約して貯蓄しているのは，家を買いたいからなんですね。

注：同内容を，若者は文末に*/あっそう/*ではなく，*/意味/*を用いることが多い例文。

参考-高齢者（女性）

頷	前----------→頷（繰）				頷		下+頷（繰）		
PT-2	*お金*	*貯める*	*けち*	*貯める*	*何*	*家*	*買う*	*好き*	*あっそう*
	ル----------→								
	細----------→		細----------→						
	オカネ	―----------→	ア	イエ	カイタイ				

訳：あなたがそんなに倹約して貯蓄しているのは，家を買いたいからなんですね。

注：参考-高齢者（男性） の別の表現。この例文でも若者は文末に*/あっそう/*ではなく/*意味/*を用いることが多い。

※[２][３]の使用は比較的新しい（平成に入ったあたり）使用法。

（別添 3）

2. 京都地域の手話言語の収集および分析

厚生科学研究費補助金（感覚器障害研究事業）
分 担 研 究 報 告 書

京都地域の手話言語の収集および分析

分担研究者：大杉　豊　　筑波技術大学准教授

研究要旨

京都地域に在住する京都府立聾学校在籍経験者 32 名(20 歳台～80 歳台)の手話表現を収録した言語資料を使って年齢層による語彙上の違いを分析した。続いて東京地域の手話表現をもとに作成された電子辞書の活用により、年齢だけでなく地域による語彙・文法の違いの分析を行った。分析結果を踏まえて手話言語の変化に関する仮説を策出し、最後にこの分担研究で作成した言語資料を手話言語研究、手話通訳養成、特別支援教育に活用するための枠組みを考察する。

A.　研究目的

「日本各地の手話言語に関するデータベース作成」研究の分担研究として、京都地域に在住する京都府立聾学校経験者 32 名(20 歳台～80 歳台)の手話表現を言語資料として作成し、この資料を使って年齢層による語彙上の違いを分析する。

続いて東京地域の手話表現をもとに作成された電子辞書の活用により、年齢だけでなく地域による語彙・文法の違いを分析し、手話言語の変化に関する仮説を策出し、最後にこの分担研究で作成した言語資料を手話言語研究、手話通訳養成、特別支援教育に活用するための枠組みを考察する。

B．研究方法

① 平成17･18年度の本研究で収集した言語(映像)資料を用いて、手話表現の分析を継続した。これは京都府立聾学校に 5 年以上在籍した経験を持つ者 22 名(最年長：大正 7 年生まれ、最年少:昭和 17 年生まれ)に聞き取り調査を行って、手話表現を収録したものである。

② 本年度は京都府立聾学校に5年以上在籍した経験を持つ若年層 10 名(最年長：昭和 27 年生まれ、最年少：昭和 58 年生まれ)に聞き取り調査を行って、手話表現を収録した。聞き取り調査の内容は、ろう学校時代に受けた教育、先輩や後輩との思い出、卒業してからの仕事などである。

なお、京都府立聾学校卒業生で、地域ろう協会役職の経験が長い女性が聞き手を務めた。分担研究者が聞き手を務めなかった理由は、東京出身で京都府立聾学校在籍の経験を持たない分担研究者が聞き手となった場合に東京地域の手話表現が聞き取り調査における京都地域の手話表現の生成に影響を及ぼすことを懸念したことによる。

手話収録にあたって、平成 17・18 年度と同様に、京都市内のスタジオにデジタルビデオカメラを 3 台設置し、アングルは聞き手及び対象者両方が入ったもの、聞き手のみが入ったもの、対象者のみが入ったものの 3 種類とした。3 台のカメラを同時に回して、3 本の異なる DV テープに収録を行った。

聞き手のみの映像と対象者のみの映像を別